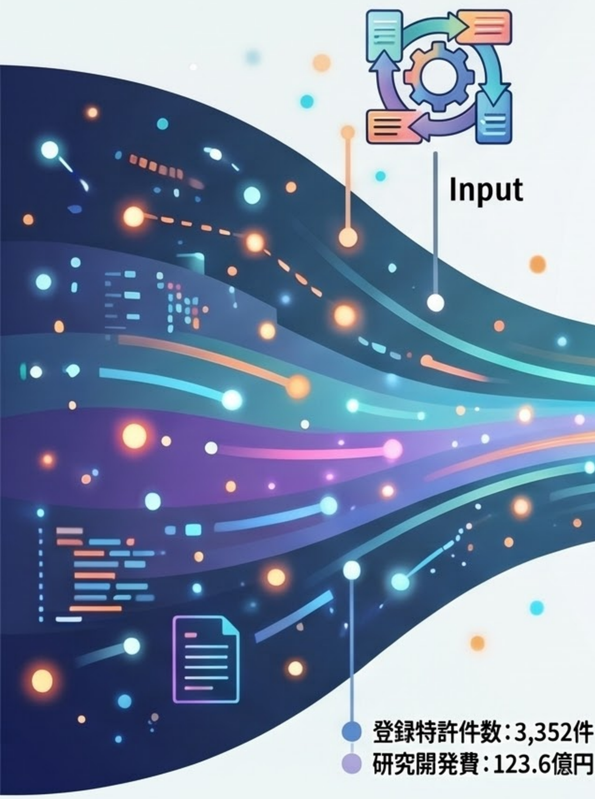
三井金属：知的資本経営の進化プロセス（2023-2025）

2023年



登録特許件数：3,352件
研究開発費：123.6億円

整備段階「知の概念提示」

価値創造プロセスの中心に「マテリアルの知恵」を置きつつも、知的資本はまだ登録特許件数などの「Input」としての記載が中心。IPランドスケープ等の体制整備フェーズ。

2024年

登録・仮有特許件数：3,370件
研究開発費：133.5億円
特許総貢献価値：2,818
ICT教育/DX人材：2,000名受講

具体化段階「経営資源としての可視化」

トップメッセージで「両利きの経営」を知財と接続。特許経資施価値の頒示を開始し、知財・人的資本・DXがガバナンスの機構に組み込まれた。

2025年

登録・仮有特許件数：3,561件
研究開発費：149.2億円
特許総貢献価値：2,851
DX人材：30名超/
生成AI活用(50%以上)

統合段階「戦略・KPIへの完全同期」

知的資本を「競争優位の中核」と定義。25中計の柄マテリアリティに組み込まれ、事業ポートフォリオ評価やROICと運動する経営実行の対象へ昇華。

未来への展望：課題と機会のマトリクス

課題：知財価値の「事業価値」への翻訳

特許価値の向上を、単なる数値目標に留めず、利益率向上、参入障壁の構築、競争優位性（デファクト化）といった具体的な事業成果へ結びつけることが最優先事項。

機会：先端材料での「設計パートナー」化

A-SOLIDやHRDP等の重点領域で、知財と顧客接点を組み合わせ、素材供給を超えた「設計パートナー」としての地位確立を狙う。

基盤：Valuesに基づく組織文化の醸成

2025年に制定されたValues（行動指針）を現場に浸透させ、「知恵を出し合う」「やってみる」文化を、知的資本を生み出し続ける再現可能な組織能力へ昇華させる。